

旅

—らか驛京東—

新庄 よしこ

夏休みの或る日、さういふ續きあひで、さうなつたのか、今はすっかり忘れてしまひましたが、こに角幼稚園のこを何さいふこもなく考へつゞけて居りました時、ふみ、あの東京驛の構内が眼に浮んだのでございます。さうだ、あの乗車口に一足はいれば、改札口がある、切符賣場がある、荷物受付、自動電話、賣店、郵便局、待合室、つゞいて食堂、あの大きな時計、ピラの數々。さう考へつきましたら、その中のどれでも保育室に結びつけて、先生ミ幼兒ミの協同作業が、かなり長い間つゞけられる様な氣がいたしました。さうだ、あれをやつて見よう、ミさう考へが決めましたので、落つてその一つ一つについて、もくろみを立て、大體の見當をつけて見ました。こで東京驛をそつくり保育室内に移した場面が、おぼろげに私の頭の中に出來上つたのでございます。これが丁度第二保育期を目前にした夏休みのこ、(もう去年のここになります)が、是から私の組の子供達も仕事にさりかゝる大事な時期だ、思ひ切りやつて見よう、だがかう種々ある仕事を決して急いではならない、修了迄の間にすべて完成すればよい、賣店をまつ始めにして、次は何にしようか、食堂は年長組の何時ごろがいゝかしら、なごゝ保育案のあら筋だけをたてたのでございます。

九月、第二保育期が始つて二三日の後、いよいよこの計畫をすゝめて見ました。この時には程餘この仕事についての目的なり、計畫なり、方法なりがはつきり具體的に私に解つて來て居りましたので、次のやうな事を考へられるやうになつたのでございます。

一、一つの仕事が年少組から年長組へ引つゞいて出来る作業であつて、次から次へ展開し得る可能性があり、個々にしても作業價值がありますが、その個を總合すれば、東京驛といふ一つの大きな仕事となり、そこから更にいくらでも展び得られると思ひますが、さう變つて行くものであろうか。

一、先生と幼兒の協同作業、云つても、私が主になつてすゝめて行かねばなりませんので、常に次に取りかかる仕事を考へておくこと、又生活活動を主にした作業は、さうかする活動にのみさらはれて、手技を忘れがちになり易いので、さうかにはれを十分入れて一人一人の製作力を伸ばしてゆきたい。

一、これは最も興味深い汽車あそびから始つたことであ

るが、たゞ遊びとしてばかりではなく、日々實際に行つてゐる事實をそのまゝ持つて來られること。

一、年少組はその心配もいりませんが、年長組になりますに、一つの店だけ例へばおもちゃ屋だけ八百屋だけにいたしますと賣り買ひは、賣り手買ひ手の人数が少数に限られてゐるのでさうかするに、組での勢力家に獨專され易いのが、賣店、切符賣場、食堂などは、動く人数を多く要するので、自ら組全體のさの子にも活動の機を與へ得ること。

以上が、仕事にさうかゝる前に思ひ浮んだことでございます。

是からのことは、右の計畫を實際に行つて見た経過を順序のまゝに記すのでございますがその間にも考へが變つたり、止めてしまつたり、途中で思ひついたり、さうする寫には、相當の理由もあるので、夫等も織り交せて書いて見ようと思存じます。

賣店

改札口

切符賣場

荷物

食堂

驛の辨當賣り

まづここからいふ順序でございます。

賣店

まづ最初に賣店を開くことにしました。この頃にもなれば(年少組の第二保育期)子供一人づゝについて大體この子はさういふ子であるさういふのが、受持には解つて来て居りますので、計畫した仕事に向つて一人一人を適當に動かすことが出来ますし、子供の方さしても幼稚園生活に慣れて来て、在園中を通じてこれからが一番仕事に向つて専心力を注ぐべき時でございます。従つてぐんぐん仕事を與へて伸ばす大事な時でありますから、紙を材料とする手技製作をして賣店の種々の品物を次から次へに、作ることを主として店に置いて見よう、かう考へました。

店構へは遊び用の衝立を物置から持つて来てまづ看板を第一に、黄色ラシヤ紙を横に長く切つて、トウキヨウエ

東 京 驛 賣 店



キバイテン、カメラミシ、是は私が鉛筆でうすく下書きしたのを子供になぞつて貰ひました(幼年組に筆で字を書かせるのはまだ早いので、ミ云つてこゝへ大人の字では不釣合ひですから、かう致しました)種々の品物をならべる場所は、幼児用机に積木ミ。

品物Ⅱ新聞、キャラメル、たばこ、菓子箱、繪本、アサヒグラフ、手拭、手袋、エハガキ、ハンケチ、財布等。

新聞 印刷のしない新聞用紙を使はうかと思つたのですがあまり大仰になりますのでこれは菓半紙にし、ほんまうの新聞を見せて、字は………にしておきました。

年少組の時には、たゞ「シンブン」に書くのもあり、書かぬのもあり、そのまゝにして置きました。がその後あまりよごれましたので年長組になつてから書き直して貰ひましたところ、此時は、私のお家は日々よ、讀賣よミ云つて、殆んご各自、自分の家でゐる新聞の名をカナで書いて居りましたので、家でミつてゐる新聞に氣をつけてゐるさいふ事を知りました。

菓子箱 チョコレートは、子供が大好きですから、

「お家でお菓子の銀紙があつたら大事にして先生に持つて来て下さいね」ミ、お歸りのお支度の出来た時皆に申しました所、毎日のやうに少し宛持つて來ました。それを集めて置いて、その中に紙屑や、綿やら入れて、お菓子にし、空箱に入れてセロファンで被ひをしたり、袋に入れたりしました。私の組の子はそれをよく承知して居りますが、何にしても一番すきなチョコレートが店に列びましたので、始めのころはよその組の子供さん達が、一寸お留守に買つて行つてしまつて、あき店になつた時もございます。カステラなどは、水引をかけた箱だけにしておき、アンパンなども作りました。

買はれるのも一ばんチョコレートが多いやうでございます。かうしましてから大層銀紙を大事にする様になり、お食後にはきつミ三四枚は私の許に持つて参り、又家でも丹精してためて居るようでございます。

財布 さんなのでもお金がいればいゝやうなものですが、よく摺み紙でいたしますあれば、用ひたくない

さ思ひまして、使つても破れない、こはれない、しつかりした物にしたく、ラシヤ紙、赤、黄、茶ざりませて、縦約二十センチ横十五センチ位の物を渡して、三つに折るこき、ノリ代を残して置く事なき、線をかいたり又は子供によつては見せるだけで作らせました。同じ物をもう一つ、すでに一つは作つたのですから、長方形に切つた紙だけを渡して線もノリシロも一人でさせました。かうして出来た二つを、一つは賣店に置き商品さし、一つは買物に、切符を求めるのに、食堂で食べるのに是非入用ですから各自の抽出しに入れて使ひたい時に使ふ事にしておきました。

その他キャラメル、たばこ、ハンケチ等はこゝで改めて申す迄もない物のみでございます。

右の品々について一こき、これは驛の賣店で賣る物ですから、あく迄も賣店さしての面目を失はぬやう心がけました。玩具やお菓子も多くすれば、材料の上では都合がよいのですが、驛さいふ事を常に念頭において續けて参りましたので自らそこに制限がございます。單調にならぬやう、

季節のもので旅に必要な手袋さか、扇子さかいふ物を加へましたが去年の秋、柿を切紙で作つて枯枝につけて、店に置きましたところ、東京驛かと思つたらいつの間にか荻窪驛の賣店になつたさ倉橋主事がおつしやつたさうで、中野(主事の住居)は文明開化の尖端をゆき、荻窪(私のさころ)はむじなか狸でも出る田舎だと思つていらつしやいます。

改札口

寫眞(口繪)で見えていただきます。さり立て、申せば、是れは、幼児が切符を買つて入口からはいり、切符を渡して出口から出る、子供が殆んど毎日實際して居ります、その事實を主にねらつた事で、これは先生の製作の方が多うございます。材木屋から約八センチの角材を買つて来て組み立てニスを塗つたもの、柵さ柵さは鎖でつゞけました。鎖は、有り合せの黒い新モスを、おちやんさの紐の様にして、輪に致しました。入口出口の札は、何でも宜しく、かういふ場合幼児であるからして、カナにする必要はないさ存じ、そのまゝ入口、出口さして置きました。入口の方に一人の幼児が切符切りを持つて立つて居り客の出さ切符に缺を

入れ、出口の方に居る幼児は客から切符を受け取ります。

これをお茶の水のバラックで始めましたので、さうせ引越しするのだからと思ひ、柵を立てるのに、床にヂカに打つけましたが、新園舎に移りましてからは、建物に一本の釘を打つ事もしたくないと存じ、さりごと立てる方法に困つてしまひました。他用で来た大工さんに相談しました處、快く、立ち得るやう作つて呉れました。床にヂカに打ちつけたのミは違つて、さこへでも移動出来ますので、この改札口は、遊びの動くまゝに、室内なり、或は庭なり、室から庭への境へなり、山の上へなり氣に向いた處に持つて行かれて都合が宜しうございます。

切符賣場

是も寫真で見えていたゞきます。窓の高さを幼児の脊に比べて作りましたので、外には大した工夫も要りません。是れも組み立ては先生の仕事、釘を打つこも、塗料、(エナメルで表、緑、裏、白色クリームいろ)を塗るこも、窓口の網を針金であむこみなぎが、幼児の仕事になりました。是を使つて見たまこころ、切符を置く棚や、時日を入れる設備、

(板ミ板ミの間に一寸切符を挿してから賣る) なぎしてほしいさいふ幼児からの註文で、後から加へました。

「熱海まで、二枚下さいな」。

「満洲……一枚」。

「大阪、大人ミ子供です」。

「子供は何枚」。

「子供は二枚下さい」。

かうして切符を買つて居ります。

嬉しい事には、組の中でも至つて無口な、さうかすれば、

二日も三日も口をきかないミ云つた、又は常に一人遊びばかりをしてゐる子供が、こゝでうれしさうに窓口顔を出して友達ミ話して居る所を度々見受けるようになったのでございます。今迄、話をしない、友達ミは遊ばないミ入園以來看板をかけて来て居たので、私が見るミ、眩しさうな様子をするので、知らん顔して、室を出てしまふ事もあります。此頃ではそんな遠慮もいらなくなりました。

切符は、畫用紙で始めは大きさも定めて、行先を書いたり、ミシンを入れたりして居りましたが、ぢきに使つてし

まひますし、大急ぎのまき間に合ひません。それ程急にこの切符賣場を利用しますので、「ちや切符買つて来よう」云つて飛んで来ました時、一々作つて居ては間に合ひません、この頃では畫用紙の書き古しをためておいて、大急ぎで切つては與へて居ります。

荷物受付

この驛でも荷物をあづかつて居りますし、旅への必要品でもあり荷物受付の有様を考へて見ました。大きな行李、トランク、ふみんの包み、菰包み、そこでまづトランクから始めようと思ひつき、私が一つ作つて見ました。幼稚園引越しの時拾つて置いた電氣用具の空箱、ダンボールの大きいものでした。是に、提げる所は、靴屋で不用になつた皮を買つて来て、(三十人分五十錢位)兩端を鋏(足二つ)で止め、角の飾り皮は茶色模造紙。これを一つ作つておいて、それから子供の家からなるべく大きい空箱を持つて来て貰つて、一人づゝ自分のトランクを作りました。大きい物には、アメリカカ、イタリー、フランスなどゝ紙を貼りました、今迄おぼろげに聞いて居た物の名が、國の名で

あるこころをはつきり意識したやうでした。

かういふ時の空箱に、電氣用具の空箱、扇風機、ストーヴのはいつて居たものなどは何に使つてもいいやうで、堅くて、小さい普通の空箱よりも、ダンボールのもの、大きいこころや、ザクリとした手ざりはりなきが、幼稚園の製作に適當でございます。食料品店などにも澤山ありますので、買つても僅かなもの、大ていはたゞでも貰はれませう。

トランクだけではきまりすぎるので、菰づゝみや、小包式のものなき、荷札をつけて四つ五つ作つておきました。是等は何れも輕いので、持ち上げて見て輕うございます。實物から來る荷物の感じを減退されますので、適度の重さが必要に存じますので、不用の古い繪本なきを入れて重く作りました。

この雜然とした荷物を汽車に積んで、荷物列車にするこころがよほご嬉しいやうで。幾度か繰返されて居ります、この荷物にはガラス(ガラスで作つたものゝ意)がはいつて居るから大事にしてね一人が云ふ、ソーツミ持ち運びし

てゐますので、取扱注意が自然に行はれて居るこゝなぎを見受けます。

この鞆の中に、自分のほしいものを作つて入れさせたら、手技製作にも面白いものが出来ると思ひましたが、こゝでは餘り微細になるこゝを避けて止めておきました。その代り、何か入れるものが欲しくなつた時には賣店から買つて來た物を入れて居ります。

大時計Ⅱ大きなもの、確りした物と思つて、板にししました。四十センチ四方のニヤ板を(十五錢)四角のまゝに使ひ、數字はエナメルで幼児に書いて貰ひました。針は同じく細い木で、自由に動かし得るやう、云つても真中に釘一本打つただけでよろしいので、驛の爲に自作つたものが、お辨當の時になれば、椅子を持つて行つてせのびしつゝ十二時を指したり、お歸りには、誰かゞ飛んで行つて一時半にいたして居ります。時計そのものを知らせるのは早うございませうが時刻の觀念位はそろゝ始めた方がいゝと思ひまして、時には私の方から何時ごろでせうねと、この素朴な大時計の針を動かして聞いて見るこゝもございませう。

電話Ⅱ東京驛には電話が澤山あるよゝ或る日子供が申しましたので、それで無くとも一度電話を室に置いて見たいと思つて居りましたこゝへて、早速、木あき箱で、おかしな物を作つたのですが、さうもわれ乍らみつゝもなくて、でも子供はそれで相當に話をして居りました。新聞舎には餘り恥しくもあり材料費の餘裕が出来ました時に電氣屋に相談しました。(玩具やにあるのはあまり小さいので)店の若い息が面白がつて、自働式の、鈴のなるのを作つてくれました、(貳圓五十錢)幼児二人で話し合ふ聲が聞え得る程度の距離に備へ付けました、(線で話の出来るのは餘り高價になりますので)かうして順々に待つてゐて話しをするこゝなふ有様で。

「明日大阪に行きませんか」。

「あした東京驛に來て下さい」。

「今日サーカスに行きませんか、大急ぎで」

折しもサーカス流行りでサーカス見物へ誘ふ電話はひつきりなしで、電話ばかりでなく、丁度あの五六月頃は、何でもかでもサーカス、動物の玩具を出して來て、積木で

一つ一つ動物小舎を作る、動物つかひの上手な、M、T、Yなき、毎日／＼幼稚園に来るなり、虎をおごらせる、象に藝をさせる、ライオンが輪をくぐる、私も慣習生も面白くなつて、レコードをかけて景氣をつけたりました。いつの間にか入園間もない小さい人達が、庭側の入口からゾロ／＼見物に来る、する／＼、驛のキップ賣場が忽ちサーカス用になつてお客さんに切符買つていらつしやい／＼命じる。

買つた子は入口からはいつて、動物の近くで腰かけて見物、終る／＼出口から歸る、小さい組の人達が、一ぱいなので、「僕、お菓子買つて上げよう、キャラメルがいゝね、たばこも買つて来て上げる」／＼いふわけで、此のサーカス興業中に賣店の品物は殆んど賣り切れで、又新らしく作り直したやうなわけでございます。是が一週間もつゞきましたらうか、あんまり、お祭り騒ぎもさうかき存じ、ソーツ／＼動物をしまつたやうなわけでしたが、ほん／＼に面白／＼ございました。この電話が驛のもの／＼はすつかり關係を離れて、家の電話に使はれて居りました、大ていはお臺所の御用で。

「肉を百匁持つて来て下さい」。

「バナ、を一チヨウ(?)大急ぎで持つて来て下さい」。

一方でリンがなる／＼通りが／＼の子が大急ぎで電話口に出るのを屢々見かけました。誰／＼も遊ばない、自分からは口を開かう／＼しない子が、誰も居ない時、一人で電話口に向つて居る時なき、大急ぎで私から電話でその子に話しかけて、思ひがけなく話し合ひの出来た／＼もございました。

食堂

六月にシヨクドウ、セイヨウケン／＼いふ札を出しましたら、主事が喰ひしんぼうだ／＼違つたものだ／＼通りが／＼の先生に笑はれましたが。

食堂をして見たい、／＼はかね／＼思つて居ました。御馳走をこしらへて、お客さんが食／＼に来て、コックさんが居て、註文の品を運んで来る給仕さんも居て、それが丁度汽車のあそびで、食堂車がほしい／＼か、お辨當がさう／＼か申しますので、まづ看板を出したのでございます。衝立で室をしきつて／＼を食堂にして、テーブルには白い／＼を掛けておいて、それから食料品の製作にか／＼りました。



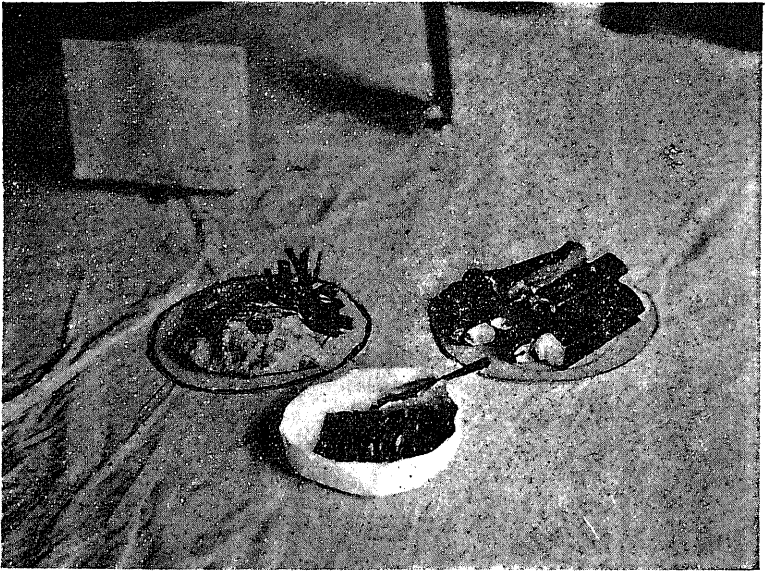
食 堂 アヒラフヨリ轉載

お母さんに連れられて、食べに行く事は誰もくして居るこゝですが、自分が主になつて物を注文するこゝいふ事やそれよりも、注文された品を持つて行くこゝいふそれが誠にうれしらしく、私もそこを満足させたいと思ひ、これを始めたのでございます。

食料品棚

この寫真でごらん下さいまし。ポールド半分は黒色ラシヤ紙を貼つて、洋酒類、西洋菓子、果物、お皿云つた、誠に雑然とした品々ですが、書用紙に寫生して、それを切りぬいて棚に貼つたもので、洋酒はサイダーやアルコールの空瓶を、その他は夫れぐに、材料を探して子供が書きました。この時の先生の忙しさ、喰ひしんぼうは主事にのみ限らず、幼児一同、御馳走製作に一齊にごつみ押し寄せて室中書用紙だらけいふ盛況でございました。出來た品々を黒い紙の上に貼りますよ、この様にいかにもおいしさうなので、大よろこびでした。

右の食料品棚は見た目には大へんおいしさうなのですが、注文の品を持つて行くこゝいふわけにはまわりませんが



御馳走 走 馳 御 載轉りよフラグピサア

ら、そこで、繪ではない、運んで行かれるミこころの御馳走をつくりました。

お皿は、白色ボール紙を西洋皿大に切つたもの、チキンライス、アイスクリーム、海苔巻、玉子巻、精養軒にはちミ不似合ですが。

のり巻は、黒模造紙を適宜に切つて綿を入れ茶色の紙で干瓢をはさみました。幼稚園でつくるものは何でも綿入れだミ主事さんに笑はれて、疊の藪でも使つて見たら、ミ教へて頂き早速そのやうにいたしましたがなか／＼面白いものが出来ました。チキンライスは半紙をもゝ色に塗つてグリーンピースをかいて、これも綿入れ、バセリを添へて、かうして一皿つつ出来た御馳走を食料品棚の下に一枚板で棚をつくつて竝べておきました。

これにコックさんのかぶる帽子、給仕さんの飾り帽子が出来ましたので、食堂が開かれました。その状況を寫真でござら下さいまし。今お客さんが満員で、暑い頃でしたから三色アイスクリームを食べてみます。お客さんの註文で給仕さんはコックさんにチキンライスを貰ひに行つてゐる



列車の内

ます。

白いきれをかけたこのテーブルだけは、他の時には使
ないで、食事をする時、つまりお辨當の時か、食堂ゴッ
コの時だけの専用にして置きます。

驛のお辨當賣り 汽車が動き出してから、やたらに賣店
の品物を持つて來ますので別に、首から下げる箱へ、お辨
當やら、アンパンやら適宜の品を作つて入れました。

寫眞は、驛に止つた列車の景でございます。

去年の夏私が頭の中で考へた時き、それからつゞいて幼
稚園で實際に見ました今き。思ひの外に子供が動いて
くれますここに依つて次へ次へ又あらたな方面に展開し
て行きました。まだく展び得られるのでございますが、
修了を控へた今、他の方面にもちミ力を注ぎたい事もござ
いますので、惜しいと思ひながらこゝで打ち切り（仕事だ
けは）ましたわけでございますが、相變らず賣店での賣り
買ひ、入口出口の往來、食堂ごつこいふ、所謂幼児の生
活々動は間斷なくつゞけられて居ります。賣店にしても、

キップ賣場にしても食堂にしても、あそびは時を定めて居りませんので、心の向くまゝに任せて置きます。

又、この仕事でよかつたと思ひますのは、始めにも申しました様に、店なら店一つの時は兎角組での勢力家に主要役目を獨專され易うございますので、先生が挨拶しなければなりません、この仕事では、活動する場所が方々にございますので、大きく申せば一時に組の子全部が活動し得られるといふわけでございます。

かうして参りますと、食堂に入っている時はきつゝ自分の抽出しから財布を出して来て、食べてしまふとお金を支拂ふ、切符を買ふ時には鎌倉、大阪、神戸も嘗て自分の行つたところのある行先をいふ、もし是があつて二年迄もつゞいてゆかれるものなら、汽車の時間表も時計も、賃金も數も、地方の名稱も文字も、構へずして自ら伸ばし得られるところの、保育から教育へのなだらかな流れになるような心地がいたしました。

さうして、幼稚園時代の子供を他愛のないもの、手應への無いもののみ思つて居る人々にこの様子を見せて上げ

たいと思ひます程その活動が潑刺してゐる上に、食堂での註文の仕方、荷物の扱ひ等、實に確りしたものでございます。これらの仕事に對する子供の動き方を一人づゝながめて居りますと、これが遊びとは思はれない程の真劍味があふれて居ります。ごつこいふのは賣店や食堂の活動を表すのに最もいゝことばであるとは思ひますが、さうもそこにはあそびの意味が多分に含まれてゐるやうな懸念もございまして、さうかと思つて居ります。むづかしい事を申すやうでございますが、つまりは大人から見れば遊びも見えても幼児自らは真劍に活動をつゞけて居りますその力に私が動かされて、幼児の活動をあらはすことばに迄ついろ／＼考へてしまふのでございます。